

奄美地域におけるソリダゴの最適窒素施肥量	分類	普及技術
〔要約〕 <u>ソリダゴ栽培</u> において安定的な収量を確保するための1作当たりの <u>窒素施肥量</u> は、1.0kg/aが適当である。		
農業試験場徳之島支場土壌肥料研究室	連絡先	0997-86-2004

〔背景・ねらい〕

奄美地域の野菜・花き生産においては、高収量を目指して化学肥料の過剰施肥がなされ、養分過剰・不均衡による生育・生理障害を引き起こしている。近年、栽培面積が増加しているソリダゴについては十分な検討がなされておらず、施肥は過剰傾向にある。

そこで、本課題ではソリダゴ栽培における最適窒素施肥量を明らかにする。

〔成果の内容・特徴〕

- 1 窒素施肥量が0.8～1.2kg/aの範囲内では、切り花長は窒素施用量が多いほど長くなる傾向にある（表1）。
- 2 切り花重は、窒素施用量が少なくなるに伴って減少する傾向にあったが、窒素施肥量0.8～1.2kg/aでは、いずれも2L以上の切り花が90%以上を占めた（図1）。
- 3 窒素施用量を0.8kg/a以下にすると、3作目で欠株がみられた（表2）。
- 4 これらのことから、ソリダゴ栽培において安定的な収量を確保するための1作当たりの窒素施用量は1.0kg/aが適当と考えられる。

〔成果の活用面・留意点〕

- 1 適用地域は、奄美地域のソリダゴ栽培地域とする。
- 2 本試験ほ場の可給態窒素は現地ほ場に比べ低く、本試験は比較的地力の低いほ場での試験結果である（表4）。

[具体的なデータ]

平成15年度試験の耕種概要

栽植様式 畦幅110cm, 株間15cm

条間15-30-15cm

(2条植え, 3本仕立て)

電 照 暗期中断3時間

1作目 基肥 11月21日

定植 11月28日

摘心 1月 9日

収穫 4月20日

2作目 台刈 4月20日

施肥 4月20日

整枝 5月 7日

収穫 7月12日

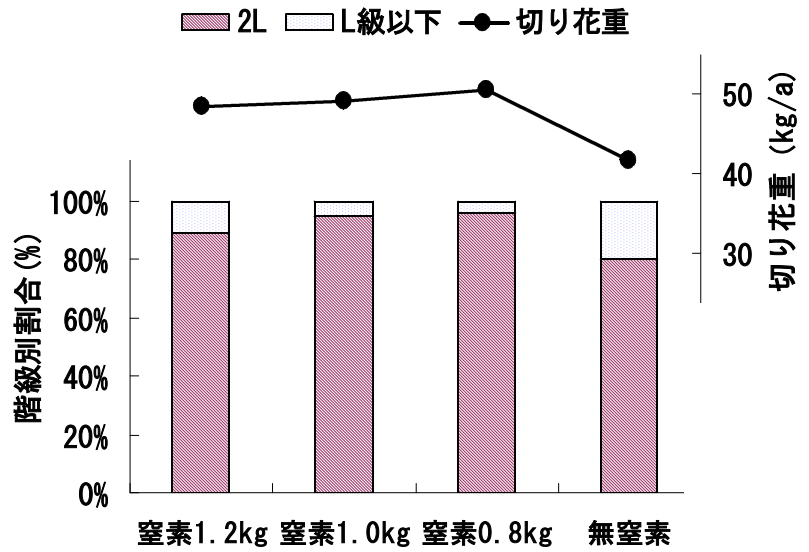


図1 切り花重と階級別割合の比較  
(平成15年度, 2作目)

表1 収穫調査結果 (平成15年度, 2作目)

区名	項目	切り花長 (cm)	花房長 (cm)	花房幅 (cm)
窒素1.2kg		95.8	46.6	44.4
窒素1.0kg		93.9	45.0	44.3
窒素0.8kg		93.1	45.0	47.6
無窒素		93.6	42.2	40.9

表2 3作目における欠株率 (平成16年度, 6月)

区名	項目	欠株率 (%)
窒素1.0kg		0.0
窒素0.8kg		7.5
窒素0.6kg		6.0
無窒素		9.1

表3 可給態窒素の比較 (mg/100g乾土)

区名	項目	可給態窒素
試験ほ場		2.03
現地ほ場		6.18

※現地ほ場の可給態窒素は徳之島のソリダゴ栽培ほ場10地点の平均値である。

[その他]

研究課題名: 奄美地域における野菜・花きの環境保全型栽培管理技術の確立

予算区分: 県単

研究期間: 平成14~16年度

発表論文等: 平成14~16年度農業試験場徳之島支場土壌肥料秋冬作試験成績書